

青梅市文化財ニュース

第423号

令和5年1月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859)

軍畑駅周辺の史跡と戦跡

昨年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に触発されて市内の鎌倉街道(山ノ道)を歩いてみると、畠山重忠伝説、歴史的建物、石造物、井戸などに加えて、軍畑をはじめとする史跡と戦跡がありました。年の初めに、地球上で今も続く戦争が一刻も早く終結し戦跡となることを願い、軍畑駅周辺の史跡と戦跡について記します。

いくさばた 軍畑

軍畑駅周辺は戦国時代の辛垣合戦の戦場でした。辛垣合戦は青梅とその周辺地域を支配していた三田氏と小田原北条氏の戦です。三田氏は鎌倉時代以降約250年間東青梅の勝沼城を拠点としていましたが、戦国時代の永禄年間(1558~69)の初め頃、二俣尾に移り辛垣城を築きました。ところが、まもなくして滝山城主の北条氏照が攻め入り、三田氏は敗れ滅亡してしまいました。軍畑という地名はこの辛垣合戦に由来し、駅名も軍畑となりました。

よろいつか 鎧塚

辛垣合戦で討ち死にした兵士の甲冑や武具を埋めた塚として、軍畑駅の東側に架かる奥沢橋梁の直下に祀られています。実際に、破れた甲冑や折れた刀剣が出土したと伝えられ、市指定史跡となっています。

ほとけでえろ 仏平

多摩川に架かる軍畑大橋南側の柚木地区に残っている地名です。平成3(1991)年の軍畑大橋建造以前にはこの仏平に地元住人の墓地が3か所ほどあり、所以のわからない墓石が何基もありました。このあたりは辛垣合戦の戦場であったことから戦死者を埋葬した墓であろうと推測されていましたが、今は所在不明となっています。

アメリカ軍重爆撃機「B29」墜落地(柚木町の愛宕山中腹)

鎌倉街道の柚木町3丁目と2丁目の境にあたる山道入口の足元に、「B29→」と書かれた小さな案内看板があります。太平洋戦争末期の昭和20(1945)年4月2日未明、B29が墜落炎上した現場近くの慰霊地を示しています。B29は多摩地方の軍需工場を大編隊で爆

撃したのですが日本軍戦闘機の攻撃を受け、脱出した6人を除く5人が死亡しました。当時の村人は祖国を焦土化し同胞を殺戮するアメリカ兵は憎く、この遺体は穴でも掘って放り込んでおけばいいと思っていました。ところが、柚木に移住していた作家吉川英治の「敵兵でも人間。亡くなれば丁寧に葬ってやらなくてはいけない。」との言葉で、遺体は丁寧に収容され即清寺へ埋葬されました。その後、平成12(2000)年に地元のN氏が墜落現場近くに慰霊碑を建立し、平成18(2006)年には日米合同慰霊祭が行われました。当日は100人以上の地元民、横田基地副司令官をはじめとするアメリカ軍兵士等が参集し、慰霊と日米友好と平和が願われました。

旧日本陸軍の重爆撃機「飛龍」^{ひりゅう}墜落地（柚木町の愛宕山尾根近くの北側斜面）

B29 墜落の4か月後、終戦直前の昭和20(1945)年8月11日か12日に「飛龍」が柚木町の山中に墜落、搭乗員12人全員が死亡しました。墜落場所は愛宕山尾根の東端付近、梅ノ木峠と三ツ沢峠の間の標高約600mの北側斜面で、B29 墜落地（標高約300m）からは西へ直線距離で約2.5kmの地点です。終戦直前だったため公表されず、一部の地元住民以外55年間知られていなかったため、墜落日時をはじめ明確ではありません。平成12(2000)年頃この話を聞き現場に行ったO氏が墜落機の残骸を目にし、市民有志7人で平成16(2004)年1月に100kg以上あるエンジンの一部と散在部品を山から下ろしました。その間、関係者と連絡を取り資料を取り寄せ当時の状況を調査しました。飛龍は埼玉県熊谷の第1航空軍第16独立飛行隊に所属し、当日は静岡県浜松飛行場での事故機の支援任務を終え、傷病兵2人を乗せて熊谷に帰還する途中、墜落したと推測されています。事故原因は不明ですが、搭乗員6人の身元は判明しています。事故直後には軍救援隊が遺体を茶毘に付し、機体の残骸のほとんどを搬出し、戦後には軍関係者が墜落現場に慰霊に訪れていたようです。平成19(2007)年には現場への険しい山道が柚木森林生産組合員等の有志により整備され、遺族も加わり慰霊祭が行われてきました。その後も荒れやすい急斜面の整備は続けられてきましたが、関係者の高齢化により高地にある現場での慰霊は難しくなっています。

なお、「B29のエンジン」、「飛龍のエンジンの一部と回収された部品」は現在、青梅市郷土博物館の中のホールに保存展示されています。

(文責 三好ゆき江)

参考文献 『青梅おちこちこぼれ話姉妹編』(小川秋子著)

『文化財保護指導員連絡協議会活動報告書』21、22、25、29、31号